

十年二月十七日

二月十九日

十月十九日

乙卯 拾九号

附屬船交換并銃砲備付ノ義上申

当使附屬船一由雷電丸今回海軍省所轄船中鷹

丸下交換ノ義相議相決有候ノ義相濟候就テハ

右中鷹丸ノ海賊ヲ豫防ノ為ニ六サンチノトルクルワニ砲貳門

野戰ミタラ砲臺門并星連雷電丸備付由レミンクト

ニ銃於提共支々備付致去條詳セテ此様上申候也

明治十年二月十九日

開拓長官黒田清隆

右大臣岩倉具視殿

△玄武揚龍雷
電磁船銃砲
備付儀直
向信ノ振合
准



上申之趣聞届候事

明治十年二月廿七日

右大臣
老翁
長
印

ハ三ノ一ノルヲ也

一 防敵 (ミタウ) 砲台

一 二ミシクトシ流 核兵

十年二月十日出

十年二月十日齊

乙卯十月

寤舎焼失ノ義上申

二月十七日

本月十七日午前零時十五分當使函館

張所より先大回所焼失用大

電報局申越候様は殿上申事也

明治十年二月二十七日 院振長官黒田清隆

右大臣岩倉具視殿

用石使